

資源管理に必要な情報の提供事業

定置網漁獲統計調査

中瀬優・岡田誠

目的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方法

三重県内の大型定置漁場のうち、相差・志島・片田・和具・阿曾・贅・方座・錦・島勝・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・阿田和1号・阿田和2号の15漁場を対象に平成21(2009)定置年度(平成21(2009)年10月～平成22(2010)年9月)の魚種別漁獲量を調査した。

結果

詳細については平成21定置年度三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成21(2009)定置年度の総漁獲量は5,886トンで前年度比1.1倍であった。魚種別ではブリ(6kg以上の銘柄)が1,653トンで全魚種の28.1%を占めた。次いでサバ類が646トン、マアジ611トン、ワラサ(2～6kgの銘柄)567トン、イワシ類(分類されていない分)372トン、カタクチイワシ295トン、マルソウダ270トン、イナダ(0.5～2kgの銘柄)171トン、イサキ140トン、ウルメイワシ117トン、スルメイカ111トン、シイラ110トンであった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、ブリ(前年度比1.9倍)、サバ(同1.8倍)、ワラサ(同1.5倍)、その他イカ類(同1.3倍)、ボラ(同1.3倍)、マルソウダ(同1.3倍)、ヒラソウダ(同1.2倍)、イシダイ(同1.2倍)、マルアジ(同1.2倍)、フグ類(同1.2倍)、ヒラメ(同1.2倍)、メジナ(同1.2倍)、イナダ(同1.2倍)、ウルメイワシ(同1.2倍)、カマス(同1.2倍)、タチウオ(同1.1倍)、スズキ(同1.1倍)であった。逆に減少した魚種は、ウスバハギ(前年度比28%)、スルメイカ(同58%)、マイワシ(同60%)、カンパチ(同62%)、シイラ(同63%)、イワシ類(同64%)、カタクチイワシ(同65%)、イサキ(同66%)、マアジ(同74%)、アオリイカ(同75%)、トビウオ(同86%)、マダイ(同94%)、その他アジ類(同95%)であった。

ブリ(6kg以上)の全漁獲尾数は229,090尾(前年度比1.9倍)で、最近30年の中では最大の好漁であった。20万尾以上の漁獲は、昭和47(1972)年の207,464尾以

表1. 全漁場魚種別漁獲量

平成21(2009)年10月～平成22(2010)年9月			
順位	魚種名	漁獲量(kg)	相対度数(%)
1	ブリ	1,653,646	28.094
2	サバ	646,401	10.982
3	マアジ	611,496	10.389
4	ワラサ	566,981	9.633
5	イワシ類	372,844	6.334
6	カタクチイワシ	294,671	5.006
7	マルソウダ	270,356	4.593
8	イナダ	171,654	2.916
9	イサキ	140,661	2.390
10	ウルメイワシ	116,774	1.984
11	スルメイカ	110,660	1.880
12	シイラ	110,107	1.871
13	カマス	74,242	1.261
14	マルアジ	59,712	1.014
15	ヒラソウダ	50,463	0.857
16	マダイ	49,851	0.847
17	その他イカ類	45,285	0.769
18	イシダイ	36,330	0.617
19	マイワシ	35,745	0.607
20	アオリイカ	35,261	0.599
21	スズキ	30,967	0.526
22	その他アジ類	27,621	0.469
23	メジナ	27,608	0.469
24	カンパチ	21,992	0.374
25	フグ類	18,871	0.321
26	ヒラメ	17,974	0.305
27	トビウオ	17,484	0.297
28	タチウオ	17,152	0.291
29	ウスバハギ	11,034	0.187
30	ボラ	10,116	0.172
31	サワラ	8,743	0.149
32	マグロ類	8,372	0.142
33	カワハギ	7,757	0.132
34	ヨコワ	6,723	0.114
35	ムツ	5,808	0.099
36	ヒラマサ	5,354	0.091
37	ヤリイカ	4,681	0.080
38	ハガツオ	4,204	0.071
39	ウマヅラハギ	2,253	0.038
40	カジキ類	1,603	0.027
41	シマアジ	411	0.007
42	その他雑魚	176,244	2.994
合計		5,886,112	100.000

来、37年ぶりとなる。漁場別の漁獲尾数では九鬼2号の29,249尾が最高で、次いで錦の27,214尾であった。他に阿曾と島勝、九鬼1号、早田でも2万尾を越えた。ブリのまとまった入網は春季に集中してみられた。4月の好漁が顕著で、最近10年の平均漁獲尾数を約11万尾上回った。4月だけで全体の69%、3月～4月では全体の94%、2月～5月では全体の99%が漁獲された。全漁場合計の最高尾数は4月18日の27,194尾、次いで4月15日の18,943尾、翌4月16日の16,774尾、4月19日の16,197尾、4月30日の11,344尾であった。1漁場における1日の最高漁獲尾数は九鬼2号の9,501尾(4月18日)、次いで阿曾の8,056尾(4月16日)、同じく阿曾の7,895尾(4月18日)、九鬼1号の5,434尾(4月19日)、島勝の5,060尾(4月19日)であった。

ワラサ(2～6kg未満)の全漁獲尾数は135,660尾(前年度比1.5倍)で、ここ10年では平成18(2006)年の236,701尾に次ぐ漁獲量であった。ワラサの目立った入網は4月～5月にみられ、4月に全体の52%、4月～5月で全体の61%が漁獲された。また、8月にも全体の12%に当たる16,292尾の入網があった。一方、11月の入網は、ここ10年で最低となる912尾であった。全漁場合計の最高尾数は4月11日の14,031尾、次いで4月14日の8,501尾、4月12日の8,419尾、9月6日の7,807尾、8月17日の7,601尾であった。1漁場における1日の最高尾数は島勝の7,807尾(9月6日)、同じく島勝の7,601尾(8月17日)、同じく島勝の6,624尾(8月18日)、梶賀の4,960尾(4月14日)、同じく梶賀の4,737尾(4月12日)であった。4月の好漁時に最も漁獲が多かったのは梶賀で、4月合計で22,770尾もの漁獲があった。8月以降に網入れを行っていたのは、志島、贄、島勝および阿田和1号のみで、漁獲は島勝に集中していた。

イナダ(0.5～2kg)の全漁獲尾数は128,062尾(前年度比99%)であったが、当歳魚が主体となる8月と9月を入れない集計期間では127,740尾(前年度比1.4倍)で、過去10年では最大の漁獲尾数であった。平成21(2009)年級群は、和具と阿曾、島勝に偏って入網し、和具で4月～5月、阿曾で4月、島勝で平成21(2009)年10月～11月および平成22(2010)年6月～7月にみられた。阿曾では4月11日～12日の2日間に合計約1万4千尾の集中漁獲があった。また、島勝では6月3日から7月2日にかけて合計約3万3千尾の入網があった。平成22(2010)年級群(当歳魚)の入網は極端に少なく、8月は前年の2.1%、9月は0.5%の漁獲尾数であった。

ブリ以外の魚種では、サバの646トン(前年度比1.8倍)が最も多く、平成元(1989)年度以降の平均値(450トン)を上回った。次いで漁獲量が多かったのはマアジで、611トンの漁獲があった。しかし、平成19(2007)年度の豊漁以降は減少傾向にあり、平成元(1989)年度以降の平均値(783トン)を下回っている。

また、メジナとスズキ、ヒラメが、昭和46(1971)定置年度以降で最高漁獲量をそれぞれ更新した。マグロ類は、昭和46(1971)定置年度以降で2位の漁獲量であった。一方、ヒラマサが昭和46(1971)定置年度以降で2番目に少ない漁獲量であった。カワハギとウマヅラハギは平成元(1989)年度以降でそれぞれ2番目に少ない漁獲量であった。

関連報文

三重県(2011)：平成21定置年度 三重県ブリ定置漁獲統計。